

## 第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）  
ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと併せてご活用ください。

～金融緩和、円安など輸出産業を後押しする新政権の政策は賃金を押し上げるのかを分析します。

2013/1/23 「賃金が上昇に転じる条件は何か？ ～輸出製造業の立て直しを賃金上昇の呼び水に～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～円安、株高基調は続くか、市場環境から相場の賞味期限を予想します。

2013/2/6 「2013年の市場見通し ～年後半にはリスク志向がさらに高まる～」

掲載カテゴリ：鳥峰義清の「マーケットウォッチング」

～早くも円安株高を演出するアベノミクスと金融政策の効果について実現性に迫ります。

2013/1/22 「物価目標導入、2014年から毎月買入 ～2%の物価上昇は本当に実現できるのか～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～米国、欧州、アジアでそれぞれ進む市場の緊張緩和の背景にある経済の実情を分析しています。

2013/1/7 「米国 『財政の崖』回避も大幅な成長率押し下げ圧力 ～法定債務残高の上限引き上げ難航により2月に向け不透明感が強まる～」

2013/1/25 「ポルトガルが国債発行の再開に成功 ～アイルランドに続け、脱ギリシャ化を急ぐ～」

2013/1/22 「小国キプロスの危機を無視してよいのか？ ～ミスター・ユーロからの警笛～」

2013/1/23 「豪州、景気低迷の中、インフレ率低下は利下げの好機に ～豪ドルは米ドルに対して弱含む一方、日本円には強含む展開が続くと予想～」

2013/1/22 「『ビッグバン』でインド経済はどうなるか ～短期的に下押し懸念はあるが、中長期的な潜在成長率向上に繋がる期待～」

掲載カテゴリ：桂畑誠治・田中理の「欧米経済を探る」西濱徹の「アジア・新興諸国経済」

### 編集後記

デフレのもとで安全志向は強まり、個人に株式投資の普及は進んでいない。「適切にリスクをとれば長期投資によって報われる」と言われても、周囲に成功体験があまりに少なくて、投資は広がりにくかっただろう。アベノミクス効果を先取りした久々の株価上昇局面でも、「儲かった」と言える人は限られたと思われる。ところで「儲かった」「損した」も案外直感的に決めつけられていないか。

東証株価指数＝TOPIXは昨年29年ぶりの安値を更新した。昨年5月末時点では過去5年間に約59%下落し（1755→719）、年率換算でもマイナス16.3%という誰もが腰の引ける数字だった。ただTOPIXに投資していても、この数字が運用成績に一致しない確定拠出年金や毎月の積立て投資のような例もある。同じ5年間、毎月末に等金額に分けて60回TOPIXを買ったと仮定すると、昨年5月末時点での損失は投資額の約24%（以下手数料や信託報酬等コストは考慮せず）となる。年平均マイナス5.5%の収益率である。

本年1月末時点でTOPIXは5年前をまだ約30%下回った状態（1346→940）だが、過去5年間の等金額投資の収益率は年平均プラス1.4%になる。投資対象のリスクと同様に、投資スタイルと収益率の関係もよく見ておきたい。（H. U）